

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492100217	事業の開始年月日	平成26年3月1日
		指定年月日	平成26年3月1日
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム鎌倉材木座の家		
所在地	(248-0013) 神奈川県鎌倉市材木座3丁目16番17号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年8月5日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月22日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あふれる笑顔と居心地の良い空間作り、豊かな暮らしへの提供を常に心がけています。入居者さんの意思を大切に空気づくりや雰囲気づくりをしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年10月4日	評価機関 評価決定日	平成29年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR横須賀線「鎌倉駅」東口から京浜急行バス「逗子駅」行きで約10分「九品寺」下車、徒歩2分の住宅街にあります。近くには有名な光明寺や材木座海水浴場などがあり、多くの散歩コースに恵まれています。母体の医療法人は東京や神奈川県、静岡県地域にグループホームなどの福祉施設を数ヶ所運営しています。

<優れている点>
リビングから利用者や職員の楽しそうな元気な笑い声が聞こえてきます。玄関や事務所の扉には大きく「笑顔でつながるホーム」という理念が掲示されています。職員は利用者一人ひとりに笑顔で接し、安心や信頼を基に利用者の心に寄添っています。館長は、鎌倉市内の同一グループ法人の事業所での経験が長く、行政の職員や他の事業所と多く交流しています。事業所の運営推進会議に出席してもらったり、各種の情報を共有しています。特に自治会の会長とは、津波の避難訓練などを熱心に討議しています。母体法人グループの統括管理により、本部のマニュアルやDVDを活用し、入社時から接遇ケアや言葉遣いなど職員の一般研修や、介護・管理者・人材育成研修など質的向上を図るために研修の機会を整備しています。

<工夫点>
毎年利用者の「嗜好調査」を行い、献立や外食に配慮しています。協力医療機関は事業所の近くにあり、利用者は職員と散歩がてら通院しています。逆に精神科などのかかりつけの3人の専門医は事業所に訪問し、丁寧に診察しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム鎌倉材木座の家
ユニット名	1号館

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
	○	2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	我が社の理念と、材木座の家の独自の理念をもち、共有し毎朝朝礼時に読み上げ、実践に繋げています。	日々の支援を7項目に具体化した法人の理念と、簡潔な「笑顔」をモットーにした事業所の理念を玄関や事務所の扉に掲示し、職員は朝礼時に読み上げて確認しています。利用者や職員同士が互いに笑顔で支えながら暮らしているよう、努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公会堂での毎月の映画サロンに参加、お祭りをみんなで観覧します。理美容も側のサロンを利用しています。	町内会に加入し、運営推進会議や広報の「かわら版」などで地域の情報を確認しています。近くの公会堂で毎月行われる「映画サロン」やメイクアップショー、夏祭り、同業のグループホームなどのイベントに参加し、地域の人達と積極的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会に加入し、地区の行事の海岸清掃参加、夏休みの子供教室には職員が参加しています。材木座地区社会福祉協議会のメンバーになっています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多方面からの意見を取り入れ、サービス向上に活かしています。	年6回、偶数月の第4火曜日に開催しています。市や地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族などが積極的に参加しています。活動状況や行事内容、避難訓練などを報告し、参加者から地域の行事や運営に関する質問や助言などが交わされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	情報交換を日頃より行い協力関係を築いています。	同業の施設が数少ないこともあり、市の職員とは、空き室や困難事例の情報などを密接に交わしています。特に海に近いため、津波による避難訓練など、市の職員と協力関係を築いています。3ヶ月ごとに訪問する生活相談員は運営推進会議にも参加し、意見交換しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束ゼロのケアを第一に考え、研修等を通じ職員間に周知徹底しています。	入社時から毎月、法人グループ本部のDVDによる「身体拘束廃止」や「接遇ケア」について研修を受け、職員は弊害について正しく理解しています。館長を中心に「身体拘束ゼロへの手引き」「虐待禁止のパンフレット」などをテキストに、日常の支援を振り返っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている。	肉体的虐待だけではなく、言葉の虐待、心理的虐待のないケアを行うようにつとめています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を利用している利用者様と接し、制度について学ぶ機会を持ち、活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不安や疑問点を解消し、快適に生活して頂けるように説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見箱などを、来館されたときなど要望を聴くなどしてそれを職員間で話し合いをし、運営に反映しています。	館長や職員は、家族の訪問時や電話での話の時に常に問いかけ、出た要望や意見などを職員会議で取り上げ、運営に反映しています。3ヶ月ごとに訪問する生活相談員は運営推進会にも積極的に参加し、利用者から要望を聞き、職員と意見交換しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼、職員会議を通じ、意見交換をしています。また、少しの時間があれば話し合って意見や提案を聴く機会を設けています。	朝夕の申し送り時や法人本部の職員が参加する職員会議では、職員一人ひとりが必ず意見や要望など発言することとし、運営に反映しています。館長は折に触れて職員と面談し、意思の疎通を図るとともに課題などを話し合い、職員のモチベーションを高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	より良い職場環境作りに努め協力しあい、個々の向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人ひとりのケアの力量を把握し、外部研修を受ける機会を進めています。現場で実践している時に先輩からの助言やサポートにより全体のレベル向上へ取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業者研修会、認知症ネットワークの研修会に参加し、交流を深めサービス向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安が少なくなるように、まず本人の意見に耳を傾けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相互に信頼関係を築けるように家族の意見に誠実に対応するように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な相談に対しても柔軟な対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場で出来ることを重視し、個性を尊重できる関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人、ご家族様との関係を大切にし、共に本人を支えて行く関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前住んでいた場所、土地柄、知人、友人などを話題構築し、記憶を掘り起こしていくよう支援しています。	入居時のアセスメントから、医療情報だけでなく趣味や以前の仕事などの生活習慣を把握し、継続できるよう支援しています。利用者や職員は近隣の人が多く、家族や知人の定期的な訪問もあり、馴染みの店での買い物やレストランでの食事などを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	見守りを通じ、利用者同士の関係が良好になるように調整し支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、ご家族からの近況報告はいただいてもおり、可能な相談、支援は続けております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の行動や言動をモニタリングし、職員で話し合い、思い、希望などの把握に努めています。	日々の関わりの中で会話や行動、表情などから利用者の生活リズムを観察し、思いや意向を把握しています。本人がどのように過ごしたいか、何をしたいかなど本人の視点に立って話し合い、利用者が自分でできることを引き出すよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりとの会話を通して生活歴等を引き出し、日々における行動や視点の要因の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムや、心身状態を観察し把握し努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で思いなどを聞き、家族様の意向をながら作成します。	利用者の変化や気づきなどを記録した申し送りノートを基に、毎月職員会議でモニタリングし、3ヶ月ごとに短期目標との整合性を確認しています。基本的には1年ごとに本人や家族の意向、医師の助言など取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りのノートを作成し、細かな出来事は詳細記録へ記入し出勤時に皆で情報共有します。介護計画見直しへ活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望に対し柔軟に対応しサービスの向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が社会とのつながりがもてるよう、新聞の購読やTVニュース、訪問理美容を定期的にご利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	変化がある場合、直ちに家族へ連絡し、受診するかどうするか支持を頂きかかりつけ医だと同行していただきます。近くの医療機関だと職員が同行します。	事業所の協力医へ切り替えた場合の通院は、職員が同行しています。利用者が希望する訪問診療（内科2機関、精神科）があります。かかりつけ医を継続し、通院をする場合は家族の協力を得ており、一人ひとりが適切な医療を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師に情報を伝えて相談を行い日々のケアに反映させています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関、事業所の三者が一体となるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の対応について家族と話し合いを行っています。	入居時に「看取りに関する指針」に基づき説明をしています。重度化と判断した場合は再度話し合い、看取りケアを行なう場合は「看取り介護同意書」を交わすこととしています。職員はターミナルケアの研修で看取りについて学んでいます。	利用者の介護度が進み、職員の看取りに対する技術や心構えが求められています。ターミナルケア研修の継続など、今後想定される看取りケアについて、体制をさらに整備することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作り、職員間で周知徹底を図っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を消防署立会いで定期的に行っています。津波非難訓練も行っています。	消防署の協力を得た夜間想定を含む防災訓練を年2回、その他、津波を想定し、ライフジャケットを装着して避難する自主訓練を年2回行なっています。地域とは運営推進会議で災害の話をしています。備蓄は水、食品、備品をリスト化し、保管管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格を良く把握して、丁寧な言葉を選び笑顔で接します。	職員は、年間研修計画に基づき、倫理・法令厳守・プライバシー保護について、認知症及び認知症ケアなどについて学び、意識の向上に努めています。経験の浅い職員の不適切な言葉遣いがあった場合は、その都度注意を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自身が決定できるような雰囲気作りと声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしさを重視し、穏やかに過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を一緒に選ぶ等、髭剃り等の日だし並みが出来るよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る事を出来るだけ職員と一緒にしています。	食材の下ごしらえ、茶碗やトレイ拭きなど、その人の力に合わせて手伝ってもらっています。流しそうめん、土用の丑など季節を感じる献立を取り入れています。毎年の嗜好調査の意見から、外食で鮭を食べるなど、意向の反映に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量を毎食ごとに数値化し記録として残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は声掛けし見守りを行い出来ない方に関しては支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し一人一人のリズムを把握したうえで、早めのトイレ誘導を心掛けています。可能な限り、トイレで排泄できるよう支援しています。	おむつ使用であっても、日中はトイレでの排泄を基本とし、誘導をしています。その人の状況によっては自立していても、動作や表情を見て声をかけることを会議で確認しています。職員の適切な支援で入居から数年を経てもレベルが変わらない事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や十分な水分補給をして頂き、合わせて排泄リズムから一人一人の状況を把握するように努めています。時期によっては散歩に行きます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく急がず、リラックスして頂けるよう心がけています。入浴前には、健康状態を確認して入浴して頂いています。	週2回の入浴を基本としています。脱衣・着衣などできることを職員は見守っています。入浴時はリラックスしてもらうようにしています。拒否が強かった利用者が、職員の働きかけの工夫で、清拭、足浴、シャワー浴と少しずつ改善している事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人に合った出来る事のお手伝いや、レクレーションを行い、夜間に良質な睡眠がとれるよう生活のリズムづくりを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ファイルで薬剤情報を管理し、いつでも内容確認出来るようにしています。処方の変更になった場合、申し送りを密に行い服薬漏れや誤薬がないよう、症状や変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の生活歴や、得意分野を把握し、負担やストレスにならない程度の手伝いを頼み、感謝の言葉を伝えます。季節の展示物を作成し、展示する事で楽しみを共有できる支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩に行っており、地域のイベントへの参加は積極的に行っています。また、四季を感じて頂けるよう、花見、祭り、レストランでのお食事等支援しています。	散歩や外気浴など、外に出て気分転換する時間を意識して作っています。利用者が希望する食品や日用品の買い物に付き添っています。花見など季節の外出も企画しています。家族の協力を得て、定期的に外食や、自宅に戻りひと時を楽しむ場合もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お茶飲みや買い物など希望に添うよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	会話が他の利用者に聞こえないように電話が置かれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	展示物コーナーでは、月ごとに季節のものを利用者と一緒に作成して、気持ちよく過ごせるような工夫をしています。明るさも、もったいない。という方が多いので、そういうところも、気を付けています。	空調や温湿度に配慮した1階のリビングでは、利用者は新聞を読んだりチラシに目を通したり、気の合った人同士談笑しています。2階では利用者と職員がおしゃべりを楽しみながら、リビングに飾る季節の作品を和気あいあいと作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファとは別に椅子を置き一人でも座れるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談し思い出の品や写真等を置くようにしています。	仏壇、家族の写真、使い込んだタンスなどを持ち込んでいます。趣味を持ち、大切にしている利用者は、パステル画や自分の書の木板彫刻した作品、編みかけのレースなどをさり気なく置くなど、その人らしい居心地の良さを感じることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の身体状況に応じ、ベッドサイドに手すりを設置しています。		

事業所名	グループホーム鎌倉材木座の家
ユニット名	2号館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	○ 2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	我が社の理念と、材木座の家の独自の理念をもち、共有し毎朝朝礼時に読み上げ、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公会堂での毎月の映画サロンに参加、お祭りをみんなで観覧します。理美容も側のサロンを利用しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会に加入し、地区の行事の海岸清掃参加、夏休みの子供教室には職員が参加しています。材木座地区社会福祉協議会のメンバーになっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多方面からの意見を取り入れ、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	情報交換を日頃より行い協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束ゼロのケアを第一に考え、研修等を通じ職員間に周知徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	肉体的虐待だけではなく、言葉の虐待、心理的虐待のないケアを行うようにつとめています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を利用している利用者様と接し、制度について学ぶ機会を持ち、活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不安や疑問点を解消し、快適に生活して頂けるように説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見箱などを、来館されたときなど要望を聴くなどしてそれを職員間で話し合いをし、運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼、職員会議を通じ、意見交換をしています。また、少しの時間があれば話し合って意見や提案を聴く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	より良い職場環境作りに努め協力しあい、個々の向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人ひとりのケアの力量を把握し、外部研修を受ける機会を進めています。現場で実践している時に先輩からの助言やサポートにより全体のレベル向上へ取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業者研修会、認知症ネットワークの研修会に参加し、交流を深めサービス向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安が少なくなるように、まず本人の意見に耳を傾けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相互に信頼関係を築けるように家族の意見に誠実に対応するように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な相談に対しても柔軟な対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場で出来ることを重視し、個性を尊重できる関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人、ご家族様との関係を大切にし、共に本人を支えて行く関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前住んでいた場所、土地柄、知人、友人などを話題構築し、記憶を掘り起こしていくよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	見守りを通じ、利用者同士の関係が良好になるように調整し支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、ご家族からの近況報告はいただいてもおり、可能な相談、支援は続けております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の行動や言動をモニタリングし、職員で話し合い、思い、希望などの把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりとの会話を通して生活歴等を引き出し、日々における行動や視点の要因の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムや、心身状態を観察し把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で思いなどを聞き、家族様の意向をながら作成します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りのノートを作成し、細かな出来事は詳細記録へ記入し出勤時に皆で情報共有します。介護計画見直しへ活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望に対し柔軟に対応しサービスの向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が社会とのつながりがもてるよう、新聞の購読やTVニュース、訪問理美容を定期的に利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	変化がある場合、直ちに家族へ連絡し、受診するかどうするか支持を頂きかかりつけ医だと同行していただきます。近くの医療機関だと職員が同行します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師に情報を伝えて相談を行い日々のケアに反映させています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関、事業所の三者が一体となるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の対応について家族と話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作り、職員間で周知徹底を図っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を消防署立会いで定期的に行っています。津波非難訓練も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格を良く把握して、丁寧な言葉を選び笑顔で接します。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自身が決定できるような雰囲気作りと声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしさを重視し、穏やかに過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を一緒に選ぶ等、髭剃り等の日だし並みが出来るよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る事を出来るだけ職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量を毎食ごとに数値化し記録として残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は声掛けし見守りを行い出来ない方に関しては支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し一人一人のリズムを把握したうえで、早めのトイレ誘導を心掛けています。可能な限り、トイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や十分な水分補給をして頂き、合わせて排泄リズムから一人一人の状況を把握するように努めています。時期によっては散歩に行きます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく急がず、リラックスして頂けるよう心がけています。入浴前には、健康状態を確認して入浴して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人に合った出来る事のお手伝いや、レクレーションを行い、夜間に良質な睡眠がとれるよう生活のリズムづくりを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ファイルで薬剤情報を管理し、いつでも内容確認出来るようにしています。処方変更になった場合、申し送りを密に行い服薬漏れや誤薬がないよう、症状や変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の生活歴や、得意分野を把握し、負担やストレスにならない程度の手伝いを頼み、感謝の言葉を伝えます。季節の展示物を作成し、展示する事で楽しみを共有できる支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩に行っており、地域のイベントへの参加は積極的に行っています。また、四季を感じて頂けるよう、花見、祭り、レストランでのお食事等支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お茶飲みや買い物など希望に添うよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	会話が他の利用者に聞こえないように電話が置かれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	展示物コーナーでは、月ごとに季節のものを利用者と一緒に作成して、気持ちよく過ごせるような工夫をしています。明るさも、もったいない。という方が多いので、そういうところも、気を付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファとは別に椅子を置き一人でも座れるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談し思い出の品や写真等を置くようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の身体状況に応じ、ベッドサイドに手すりを設置しています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム鎌倉材木座の家

作成日： 平成 29年11月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	職員同士の声掛け、申し送りの徹底	職員同士がサポート出来、見守りがしっかり出来る	フロアから目の届かない場所での作業に入る時は、必ず他職員に一声かける	6ヶ月
2	5	私語を慎む	業務のコミュニケーションを優先し、今日の利用者へのケアを考える	私語禁止までは言わないが、仕事のこともっと意見し、より良い職場づくりに努める	6ヶ月
3	5	手のかからない利用者の心のケアを忘れない	みんな均等にケアすることを忘れない	一日に数回コミュニケーションを全員と図る	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月